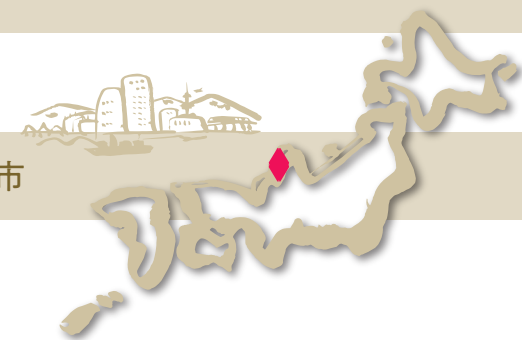


犀川大橋架橋100年の地域連携祝祭事業 ～官民連携による取組～

金沢片町まちづくり会議

北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

石川県 金沢市



1 社会資本の概要

金沢河川国道事務所が管理する犀川大橋は金沢市の中心部に位置し、鉄橋としては国内有数の歴史を持ち、1924年（大正13年）に架橋され、2024年（令和6年）に100周年を迎えました。藩政期の架橋から現在まで、その姿は何度も変わってきましたが、人と人をつなぎ、新たな産業や生活文化の創出に貢献してきた大橋の役割は今も昔も変わることはなく、その価値が認められて平成12年に

国の登録有形文化財に登録されました。平成25年に発足された「金沢片町まちづくり会議（以下、まちづくり会議）」が主体となり、大橋の更なる魅力づくりに向け、橋上でのオープンカフェ（犀川リバーカフェ）や「水辺で乾杯」、大橋の清掃活動、まちづくり勉強会の開催など積極的な活動が実施されています。



令和6年に100周年を迎えた犀川大橋



犀川大橋での水辺で乾杯



犀川大橋での清掃活動

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

架橋100年を契機として、犀川大橋の功労を称えるとともに、地域住民のシビックプライド醸成を目的にまちづくり会議をはじめとした地元団体と行政機関からなる「浅野川大橋・犀川大橋百寿会（以下、百寿会）」を結成しました。この百寿会を通して地域と意思疎通を図りながら、100周年を祝う取組「犀川大橋百寿祭（以下、百寿祭）」の企画について議論を行いました。この中で、まちづくり会議は、

百寿祭での企画提案のほか、主体的に大橋の清掃活動や花植え、加盟する商店街によるフラッグの作成など機運を高める活動を実施しました。また、金沢河川国道事務所では、次の100年を託す小学生の積極的な参加を図るため、近隣小学校へ出前講座を開催したほか、能登復興への思いなどを描いた行灯を制作し、百寿祭で灯すことで親子で参加できるコンテンツを提供しました。

プランターの花植えによる
犀川大橋の装飾100周年を祝うフラッグ
の作成・掲示

小学生との行灯制作

3 活動の成果や波及効果等

百寿祭に向け、機運を高める活動を積極的に行った結果、当日は子供から大人まで約1万5千人が来場し、シビックプライド醸成の足がかりとなりました。また、地域の魅力づくりのため、まちづくり会議が実施してきた活動の参加者は年々増加傾向にあり、特に、対岸の商店街が初めて一緒に清掃活動に参加するなど兩岸の商店街の繋がりが強化されました。

百寿祭の様子
（令和6年7月7日）兩岸の商店街代表
による握手

4 前回受賞時からの活動の発展内容

前回の受賞は、「ふるさとが誇りとする橋」として、犀川大橋の塗装塗り替えにおける色彩決定にあたっての住民参加による取組が評価されたことによるものでしたが、現在、大橋を含む周辺地域の魅力づくりに向けた活動を実施しています。犀川大橋や犀川河川敷を有効活用した「サイガワあかりテラス」のほか、道路協力団体認定後は、犀川を眺めながらカフェを楽しむ「犀川リバーカフェ」や「水辺で乾杯」など地域の魅力を発信する様々なイベントを展開しています。

喜びの声



受賞者

金沢片町まちづくり会議
会長
諸江 洋

コメント

この度は栄えある大賞を頂きありがとうございます。藩政時代から金沢の南側の玄関にあたる犀川大橋は、子供の頃から慣れ親しんだ橋です。金沢片町まちづくり会議では橋の上で様々なイベントを行なってきました。トラス構造のこの橋がライトアップされるととても美しく、架橋100年の百寿祭では地元の多くの方々に愛されていたことを改めて実感しました。地域全体の宝として大切にしていきたいと思います。

活動の内容

- 犀川大橋周辺の清掃活動
- カナザワまちハブ（まちづくり勉強会）
- 犀川リバーカフェ（橋上でのオープンカフェ）
- 水辺で乾杯
- サイガワあかりテラス（イルミネーションイベント、ライトアップ活動）
- プランターによる花植え

活動の経歴

平成25年	金沢片町まちづくり会議発足
平成26年	サイガワあかりテラス開始
平成28年	水辺で乾杯、ライトアップ開始
平成28年	道路協力団体指定
平成29年	犀川リバーカフェ開始
令和 4年	浅野川大橋・犀川大橋百寿会 会員
令和 6年	犀川大橋百寿祭開催

所在地

活動主体及び連絡先

対象となる社会資本

犀川大橋周辺
石川県金沢市片町1丁目地先から野町1丁目地先
金沢片町まちづくり会議
石川県金沢市片町2-2-6 片町きらら4階
（片町商店街振興組合内）
犀川大橋

